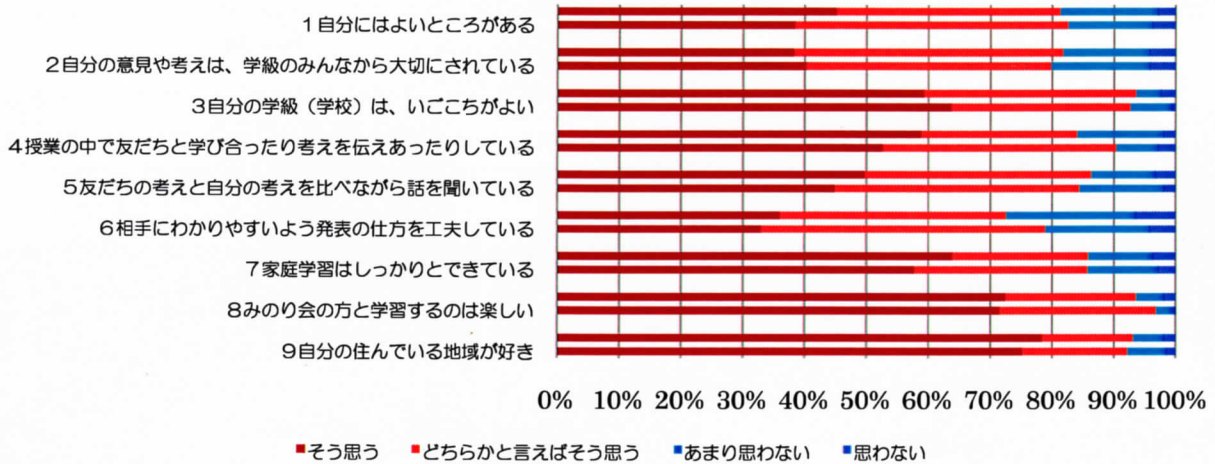


## 全学年アンケート結果（上の段1学期、下の段2学期）



### 児童の振り返り

- ・よく手をあげられるようになったし、自分のよいところがふえてきた。（2年女子）
- ・1学期は学びあえなかったけど、2学期からはできるようになったので、これを続けていきたいです。（4年男子）
- ・1学期よりもみんなの前で発表するのが楽しくなってきた。（4年女子）
- ・クラスでも自分の意見が大切にされているので、1学期よりも話すことがしっかりとできていた。（6年女子）
- ・1学期は自分の考えをまとめて言えなかったけど、2学期はまとめて簡単に発表できるようになった。（5年女子）
- ・みのり学習で地域の人たちと協力してお米作りをして楽しかった。お話し支援ジャーのみなさんに、いつも楽しい本を読んでもらってうれしい。（5年女子）

### <成果>

- ◇国語科で身に付けた「ことばの力」を、他教科や学校生活の様々な場面で生かすことができるように、教育課程や学習過程を工夫することができた。また、家庭学習と連動した授業づくりについて工夫改善することができた。
- ◇特別活動の中で言語活動の充実を図ったり、道徳教育の中で考え議論する時間を大切にしたりしたことが、国語科をはじめとする教科の授業での言語活動の充実にもつながっている。
- ◇自分の意見や考えを集団の中で伝える機会を意図的に設けたことで、積極的に発言する児童が増えている。また、そのことが自己肯定感の向上にもつながってきている。
- ◇地域が好き、地域の方と一緒に学習したり地域のことを学習したりすることが好きという児童が多く、地域の方々とふれあう中で、「～について話したい」「～について聞いてみたい」と積極的に関わっていかこうとする児童が増えてきている。

### <課題>

- ◆更に授業力・教材研究力を身に付けていく必要がある。特に中核教科である国語科については、指導事項の系統に基づき、確かな「ことばの力」の育成に向けて指導の充実を図っていく。
- ◆「主体的に学び、自分の思いや考えを豊かに表現できる児童」を育成するために、国語科を中核として教科・領域の横断的な学習を行う。その際、各学年の「丹波ひかりカリキュラム」を作成し、カリキュラムマネジメントの実現を図る。
- ◆自分の思いや考えを表現できる児童と苦手としている児童の二極化の傾向がある。学んだ「ことばの力」を活用・発揮する場を、児童の実態に即して適切に設定していく。

### <研究同人>

（平成30年度）

日下部 進	梅原 伸雄	永田 大樹	岡 泰之	北村 美幸	中野 志保
塩貝 真由美	池田 あずさ	小矢野 侃	古田 千鶴	神田 侑佳	鷹羽 圭介
長尾 朋美	柄下 貴尚	塩貝 哲哉	齊藤 聖子	片山 湧悟	酒井 亜樹奈
鈴木 直人	榎川 久仁子	村山 美智子	白樺 文	山田 満貴	西村 卓子
出野 悦子	坪井 郁子	小谷 朋也	森 智子	井上 朋美	服部 英生
樹山 菊枝	藤原 有里絵	川勝 明彦	竹内 朋子	河村 真人	